

## あなたは色眼鏡をかけて人を見ていませんか？

陳聖旻（高等部 最優秀賞）

早速ですが皆さん。  
皆さんは今、色眼鏡をかけて人を見ていませんか？  
古今東西あらゆる社会に存在する差別。国、地域、富、力、人種、外見、身分、障害、性別など、実に様々な差別の基準が存在します。  
社会の構成員なら誰もが差別を受けたことがあるでしょう。集団があるのなら差別はつき物です。  
では、なぜこの社会には差別が存在しているのでしょうか？  
しかも正当な基準によるものではなく、理不尽な理由での差別がです。  
私はこの差別が偏見からくるのだと思います。  
例えば今、皆さんの目の前に見た目が怖い人がいるとしましょう、その人をはじめてみて皆さんどう思うのでしょうか？  
多分ほとんどの人が怖いと思うのではないのでしょうか？、その人が本当に怖いのかは別にね。これを偏見というのは皆さんご存知のはずです。  
では、この偏見はどこから来るのでしょうか？  
私は他人を知らないことから来る恐怖から、偏見は生まれるのだと思います。  
人は誰も自分と違う未知の存在に出会うと、同じ人間にすら多少なりとも恐怖を抱く生物です。  
ですが、このような恐怖はお互いに会話などでコミュニケーションを成立させると、完

全にとはいわないまでも、ある程度なくなります。  
知らない人同士友達になったり、人種、言語などが違って仲良くしたりできるのがいい例でしょう。  
うちの妹もお互いまったく言葉が通じないのに、友達の日本人がいます。  
ですがコミュニケーションを取って見たというものの、それでも偏見を持つという人もいます。  
しかし、それはたいてい両者の間にコミュニケーションが成立してなかった場合が多いのです。  
相手の言葉に相槌は付いたが相手を認めてはいないか、そもそも相手の言葉をただ聞いてしかいなかった場合がそうです。  
コミュニケーションとは意思の疎通、つまりお互いの思いが行き来し、お互いを認め合うことです。  
人にはそれぞれ自分の思想、価値観があります。  
しかし、それを棚におき、自分の考えだけを一方的に押し付けておいて、コミュニケーションが成立したとは言えません。  
今まで円滑なコミュニケーションが出来なかっただけに起きたトラブルはそれこそ星の数ほどあるでしょう。  
自分の立場だけを重要視し、相手を認めようとしなかったから争いになったり、才能ある人が身分のせいで埋もれてしまったり、相手が外国人ただだけに結婚を反対されたりなど、よく聞く話です。

私たちは社会的要因や個人的な感情などにとらわれず、相手の本質を知り、認めることの出来る柔軟な思考を持つ必要があります。あなたは今、色眼鏡をかけて人を見てい

ませんか？もしそうなら勇気を出してその色眼鏡をとって人を見てください。今まで見えなかった、人の意外な色が見えるかも知れませんよ。

## 私の夢、「夢工房」

崔秀智（高等部 金賞）

皆さん、初めまして。私は果川外国語高校の3年生、崔秀智と申します。 。皆さん、突然ですが、皆さんに一つ質問をしたいと思います。皆さんはどんな夢を持っていますか？誰でもそれぞれの夢を持っていて、その夢を叶えたいという気持ちはみんな同じではないかと思えます。私にも私の心に大事にしまっておいた私だけの小さな夢があります。今日は私のこの夢を、皆さんに少し紹介したいと思えます。私が中学生だった頃、私は偶然、学生たちのボランティア活動を紹介した番組を見たことがあります。彼らは保育院や福祉施設の孤児たちに字を覚えさせたり、絵を描くことを教えてあげたり、一緒に子供たちと遊びながら楽しくボランティア活動をしていました。最初は怖がっていた子供たちも少しずつ心を開き、やがて子供たちの顔にも笑顔が浮かびました。そして、別れるときには涙を浮かべる子供たちをぎゅっと抱きしめてあげる学生たちの姿は本当にほほえましくて感動してしまいました。短いドキュメンタリーでしたが、私はこの番組を通じてたくさんのことを感じました。それまでは

ボランティア活動には興味がなく、ボランティア活動なんて学校や区役所などで簡単に済ませられるのに、わざわざ遠いところに行くなんて、思いもしなかったことでした。でも、番組の中の、子供たちが見せた笑顔は本当に美しく、どんなに辛い生活をしながら生きていても、‘この子供たちにはきっと夢があるんだな’って思いました。そして、私の心の中にも小さな夢が根付くようになりました。それは、私がずっと大人になったら、そのような子供たちのための施設を建てたいということです。それで、私が考えたのは誰もが自由に訪れて遊ぶことのできる遊び場みたいな空間でした。孤児だから、障害があるからなどと差別されることなく、誰でも夢を見ることができて、その夢をお互いに語り合い、そして夢を叶えるために努力する場所—それが私の望む「夢工房」のありかたです。みんなが互いの顔に絵の具をつけながら壁に素敵な絵を描いたり、不器用でもみんなが演奏する楽器の音を合わせ小さなコンサートを開いたり……。こんなささいなことでも、子供たちに夢を与え、子供たちの笑顔が見れることができればいいん

です。それが私の夢ですから！とんでもないことだと、自分のため生きることさえ大変なのに子供たちの世話なんてあり得ないと言う人がいるかも知れません。でも、私は必ず、私のこの小さな夢をずっと守って、いつかはきっと叶えたいんです。「夢」とは見えない抽象名詞ですが、実体として存在することのできる全ての物の中

で、一番美しいものだと思います。私の夢のための、そして子供たちの夢のための「夢工房」。いつか遠い未来に子供たちと一緒に手をつないで、夢を語り合いながら笑う自分と、まわりの子供たちの笑顔を想像しながら、私は今の全てを一生懸命頑張りたいと思います。ご清聴、どうもありがとうございました。

## 韓国のない韓流

李美隣（高等部 銀賞）

中学3年生の時、家族と一緒に東京へ行ったことがあります。あの頃、日本ではいわゆる‘韓流’が盛んでいると聞いたのですが、旅行に行ってもそれを実感することは出来ませんでした。銀座や新宿、原宿などの都心を歩き回りましたが、韓国食堂は一店も見かけられなかったのです。私が日本で経験した韓流は、地下鉄の中のポスターで健康ドリンクを片手にして微笑んでいるヨン様だけでした。これが私が韓流を省みることになったきっかけです。最近何年間東アジアや東南アジア世界には韓国文化が広がっていて、韓国のドラマや歌などが重要な経済的コンテンツになりつつあります。海外でのデビューを目当てにして、プロダクションが所属芸能人達に色んな外国語を勉強させるのも珍しくない事になりました。あるアイドルユニットの一人が中国人だったり、ドラマに外国人が出たりすることもその一例です。ところで、このような韓流の様相を覗いてみると、その中心には韓国の文化それより芸能人、

特にかっこいい男性芸能人がいる場合が多いように見えます。東アジアで有名なヨン様、パク・ヨンハ、ウォンビン、ピ、東方神起など何人かのケースを見るだけでも、彼らの共通点がすぐ分かります。彼らは皆ハンサムです。韓国語で‘コンミナム(꽃미남)’と呼ばれるこのような男性像は海外のみならず、韓国国内でも現代的で爽やかなイメージで愛されています。‘コンミナム’は‘花’という意味の‘コッ’と美形の男子という意味の‘ミナム’の、二つの単語が結びあった言葉です。この単語を聞く時、頭に浮かぶのは健やかで丈夫な男性のイメージではありません。‘コンミナム’は、男性性よりは花の女性性と少年性のイメージが強調された言葉でしょう。私はいわば韓流において一つの欠かせない要素であるこの単語の持つ意味を私なりに考えて見ました。東アジアのほとんどの国は産業化から情報化まで、急速な社会変化を経験しました。その発展と共に女性と青少年が社会を先

導する新たな主体となっています。女性と青少年は伝統社会では割合に疎外されていた階層です。‘コンミナム’ シンドロームは優しい男性への好みをさらけ出すことで成人男性中心の伝統社会に対する無意識的反発ではないかと思えます。また、一人の‘コンミナム’ は多くの人達を結束する力を持っています。女性と青少年達はファンクラブや熱狂的な支持で世の中の注目を浴びることが出来ます。ファンとしての集団的な動きには文化の主体として認められたいという彼らの願いが隠されているのかも知れません。

つまり‘コンミナム’ の人気は急速な経済発展に伴った社会変化という東アジア共

通の歴史と女性と青少年たちの成長を象徴しているように思われます。韓国の芸能人たちが幅広く活動し愛されることは韓国人として嬉しいことに違いありません。ただし、韓流が韓国文化全般への興味というより、単純に何人かの‘コンミナム’ への関心にとどまってしまったことは少し残念です。韓流がどのくらい長く続くかは分かりませんが、見かけだけの人気より中身の充実さを計らうのが大事な課題ではないかと思われます。

今までのご清聴ありがとうございました。

## 死の海から生命に満ちた海へ

徐孝婷（高等部 銅賞）

こんにちは。私は聞慶女子高校の徐孝婷です。皆さん、去年の12月7日を覚えておいでですか。韓国最大の原油流出事故が起きた日です。その日、テアンは黒い石油の波に襲われました。訳も分からずに油に塗れて苦しむカモメや、息ができずに干潟の上で死んでいく無数の命。黒く染まった海辺はまさに生地獄その物でした。絶望的な状況でしたが、人々は海を助けるためにテアンにやって来ました。私もその中の一人でした。当時のテアンは大々的な防除作業が終わり、残っていた仕事は油だらけの石を一つずつ手で拭うことでした。装備を備えて着いた海辺にはきつい臭いが漂っていました。地面を掘る度に真っ黒

な石と石油が溢れてきました。「我が国は何時から産油国になったっけ」と言う悲しい錯覚すら覚えるくらいでした。私は適当なところに腰を下ろして、持ってきた古着で石を拭い始めました。ただ黒いだけだった石が、油を拭い落とすと様々な色を持ったきれいな石に変わりました。事故が起る前にはこの海辺がどれだけ美しかったのかを想像してみると心が痛みました。しかし、その心にはひきかえ、私の体は冬の海に耐えきれなかったようでした。体に染みる石の冷気で手足が凍えました。重い石を手にとって拭わなければならなかったため、手首も痺れました。ですが、その程度の痛みは海に住む生命たちが味わった苦

しみには比べ物にもならなかったでしょう。お昼ごはんを食べてから海辺に戻ると、ちょうど引き潮の最中で遠くに海が見えました。その海に誘われて休みがてら干潟を歩きました。なかなか歩いたと思って後ろを振り向いた私はそのまま立ち止まりました。黒い海辺を沿って続く人たちの白い帯が胸を一杯にさせたからです。海を生き返らせるために同じ気持ちで頑張っている感動的な景色でした。それと同時に、人間が招いた災難で傷付いた自然をまた人間の力で取り戻すのはとても難しい事だと、心深く感じました。少し落ち込んで現場に戻るとき、岩の隙間で小さな貝を見付けました。こんな環境で

生きているはずはないと思いながらも、そっとそれに触れてみました。すると、ぴくっとして身体中で警戒心を現しました。事故が起こった直後ほとんどの生命が消えた死の海でありましたが、人たちの手によって少しずつ蘇っていくのが分かりました。いまだにもテアンでは油を除く作業が続いています。完全に元の姿に戻るまでは少なくとも十年か、それ以上の時間がかかるのでしょうか。けれど私は強く信じています。果てない海の生命力と人々の念願でいつかはテアンがきれいになることを。皆さんも海のために祈ってくださいますか？最後までお聴きしていただきありがとうございました。

## 友達になるに必要な条件

李守智（高等部 優秀賞）

皆さん、こんにちは。私はYALE高校3年生のイスジと申します。私は、私と私の友の話を通じて、友情を語ってみたいと思います。私が一番大切に思っている彼女に出会ったのは、高校1年生の時、クラスメイトとしてでした。彼女は、外見が人一倍きれいで言葉遣いが丁寧で、一目見ては近づきたいタイプに思われました。でも、その頃の私は、‘友達など、口と耳が付いてるだけの壁’という考え方をしていたので、彼女に距離を感じたところで惜しいことは何もありませんでした。彼女も、私をクラスメイト以上にしようとする気配は見せませんでした。

それがひっくり返るようになった切っ掛けは、或る日、健康設問紙に答えてるうちに交わした会話からでした。私はストレスがたまると、息が苦しくなってくる症状を持っています。息をしていることはしているけど、息をしたすっきりした感じはぜんぜんなくて、とてももどかしい症状です。このもどかしさを家族や友達にうったえても、“息してるから生きてるんでしょう？”と反問されるだけで、理解してくれる人は誰もいませんでした。それが、彼女にも同じ症状があると偶然聞いたわけです。彼女と私は、あの症状によるもどかしさについて散々文句を言い合って、少しだけ近づいた気持ちで、“あ、この

子にも色々事情があって、悩みがあって、困ってることがあるんだ。”と思うようになりました。

ひとつの珍しい共感帯を持ってからは、人より自分のことを構ってくれるだろうという依存感と信頼が芽生えました。

それ以来、私と彼女はたくさん話すようになりました。

話してみると、案外、私たちは共通点が少なかったです。ひょっとしたら、これまでの付き合いの中で、一番重なってないのではないかと思うくらいでした。

しかし、互いへの尊重を基に、私たちは個性的過ぎて人に言わなかったことまで話し合う関係になりました。

家族に言われると食傷して、他の友達に言われるとむしようにむかつくことが、彼女の口から聞くと、それはそれは真理のように聞こえました。それもそのはず、彼女は私を叱っても腹立たない唯一の同い年で

あったからです。

彼女との関係がいつも順調だったわけではありません。しかしその時の彼女はもはや、私に自発的に仲直りのための詩を書かせるくらい、大切な存在になっていました。

友情というのは複雑なものではないと、彼女は私の書いた詩を読んで笑うこととして教えてくれました。

友情に必要なのは共有している本の少しの痛みと関心だということを、彼女との記憶は教えてくれています。

この小さな発見が韓国と日本の間でもどんどん拡散することを祈りながら、このスピーチを終わりたいと思います。

聞いてくださって、ありがとうございました。

## 日本の優しき文化

金旻鮮（中等部 金賞）

初めまして、キムミンソンと申します。

私は去年の冬、千葉県の中学校で二ヶ月間体験留学をさせていただきました。

そのときに感じた日本と韓国の文化の違いについてお話したいと思います。

私は、日本についてすぐに「あ、ここは、韓国と何かが違うな。」と思いました。

なんだか 空気がゆったりしているのです。たとえば、歩行者信号を渡るとき、すぐに点滅しないので ゆっくりわたることができ

ます。

韓国の場合、わたり始めてすぐに点滅してしまうので、おじいちゃんおばあちゃんたちは、全速力でわたらないと すぐに赤になってしまいます。

また、ホームセンターに行ったら、犬を乗せられるカートがあって、わんちゃんと楽しくショッピングしている人も見かけました。

登校前日、校長先生の所に挨拶に行きました。私はすごく緊張していたのですが「あ、

お待ちしていましたよ。皆が待ってますから明日から来てください。」とすごく親切に迎えてくれました。韓国では校長先生くらいの人に会うためには、あいだに二人くらいの人が入って引き継いでもらわないと会うことができません。日本は偉い人でも気さくに話しかけてくれるんだなあとちょっと驚きました。

その日の晩、近所の人が急に訪ねてきて「これ、よかったら使ってください。」と言って制服を持って来てくれました。制服はどのようにかと困っていた時に制服を貸していただいて本当に助かりました。韓国だったらここまでしてくれる人はあまりいないのではないのでしょうか。

次の日の朝、張り切って学校に行きましたが正直言って友達ができるかどうか心配でした。でも学校に行ってみると私のことを知らない人は誰もいなくて皆が会うたびに挨拶してくれました。初めにみんなおそるおそるゆっくりした口調で「日本語分かる？」と聞いてくれました。「うん、分かるよ。」と答えたら皆が急にどっと寄ってきて質問攻めにありました。

私が日本の漫画や音楽を通して日本語を勉強したことを話すと、すっかり意気投合してすぐに美術部に仮入部することになりました。

学校では皆と一緒に調理実習をしたり科学の実験をしたり外国人の先生の英語の

授業があったりして韓国ではできない貴重な体験がたくさんできました。

そしてあっという間に二ヶ月が過ぎ日本の学校最後の日、学年会が終わって体育館から教室に戻ったらクラスの皆が誰もいませんでした。おかしいなと思っていたら一人の友達が

「ミンソンちょっと来て」と言って私を音楽室に連れて行きました。

黒板いっぱい私へのメッセージが書いてあり、先生とクラスのみんなが私を待っていました。

「ミンソンいままで有難う。ミンソンのために皆で歌を歌います！」

クラスの皆にぐるっと取り囲まれて一人の友達の伴奏に合わせて皆で歌を歌ってくれました。

その歌は「空も飛べるはず」という歌で、皆はたった二ヶ月しかいなかった私のために泣きながらこの歌を歌ってくれたのです。

『君と出会った奇跡がこの胸にあふれてる  
きっと今は自由に空も飛べるはず』

という歌詞が胸にしみました。

私は日本での二ヶ月を通じて新しい文化に心を開いて接することやきめ細かい優しさの大切さを学びました。

これからもこの経験を生かして韓国と日本がもっと理解しあえるように努力していきたいと思います。

ご清聴有難うございました。

## 闇の中から見付けた三つの光

鄭裕静（中等部 銀賞）

こんにちは、私は本五中学校3年在学中の鄭裕静と申します。私にはとても大きいこの場所ですが、それに合う大きな心を持ち、この場所を借りて普段にはよく話せなかった友達への感謝の気持ちを伝えたいと思います。

皆さん、皆さんには自分が本当に困っている時、何の訳も聞かずにどこにいても必ず助けに来てくれる友達って何人いますか？心の奥からお互いに信じて頼って、言葉にしなくても通じる友達はそう多くないはずで、私は社交性があまりない方でしたので中1までにしても本当の友達と呼べるような友達と付き合うことは出来ませんでした。見た目がご覧のとおり太っているの、昔からよくからかわれたし、そのせいで自信をなくしたんだと思います。もちろん、だんだん成長しながら、からかわれるのは何ともなく思えるようになりましたが、心から本気で人を信じることは出来ませんでした。趣味が少し特別だったので話せる相手がいなかったこともありましてなんですけど。

でも、中2が過ぎて、中3になり「あー私は幸せだなー」と時々感じるようになりました。その理由は大人になっても、お祖母ちゃんになってもいつまでもささいのない話でお互い話し合いながら日々を送られるようなとても大切な友達と会ったからです。

3、よく見たら多く、悪く見たら少ないこの数字が私の大切な大切な友達の数です。一人は一番背が高いのに泣き虫で一番少女らしく他人に愛されたがって愛したがる

娘(こ)、もう一人はいつも強く、誰にも人気があり何でも出来てしまうけど実は愛するのも愛されるのも下手で誰よりも心が弱い娘、最後に一人はお描きも一品、歌うのも一品であり、芸術的な才能は等しく取り揃えたのに着る服は一番かっこ悪くて末っ子らしい、とても面白い娘。この三人と一緒にいるとどんな悩みや悲しみもなんともない問題になってしまい、いつの間にか満面に笑顔を浮かべている自分を見付けられるのです。それほど長い人生を生きて来た訳ではありませんが、同じ位置にいる人よりもっと早く、個性的で優しくて面白い、本当の友達と呼べる人達を見付けるなんて、すごく幸運だと思いませんか？

もちろん、本当の友達とは言え、けんかをしない訳でもないし、全ての秘密を打ち明ける事もしません。意見が合わなかったり、感情が激しくなる時にはお互い泣きながら戦ったり、自分だけの秘密を1つや2つ位は皆もってます。でも、だからといって彼女達が私の本当の友達でない訳ではありません。仲が良いほどよくけんかすると言うくらい、親しい関係であるからこそもっと感情を吐き出しながら戦えるのだし、自分だけの秘密を持っていることでちゃんとした一人の人間に成長して行けるのですから。普通の友達の間ではとても気になるこうした問題が私達、4人の前に近づいて来るとなんともない下らない問題になってしまう程、友達の真の心を彼女達に会うたびに実感するのです。

高校生になり、大学生になり、社会人になりながら、それぞれ行く道は違うでしょう。だけど、どんなに遠く離れていても、どんなに長い時間会えなくなってもすぐ側にいつもいる人のよう、普段と同じのすこしは低く元気な声で明るく‘おはよう’って挨拶するのに違いありません。時には怒って戦ったり、何気もない言葉に少しは傷付いて凹ん

だり、全ての秘密を打ち明けるものでもないですが、ただ側にいてくれると言う事実がとても嬉しくて、一緒にいれば心地よくて楽しくて幸せにいつも涙を流れる自分がいるから…  
だから…ありがとうね、私の光である永遠の友。

### R U Ready to 楽? (Are you ready to ROCK?)

方濟銀（中等部 銅賞）

皆さん！皆さんはQueenの‘We are the Champion’という曲をご存じですか。また、この曲のジャンルもご存じでしょうか。ご存じないかも知れませんね。それはロックです。私はロックが好きです。なかでも日本のビジュアルロックが好きです。歌舞伎を思わせるような厚い化粧と、しらずしらずのうちに思わず口ずさんでしまう明るい曲が私は大好きです。

ビジュアルロックバンドは、音楽だけでなくみなりも彼らなりに気をつけています。初めて接する人にとってみれば神秘をこえてその深遠さは結構負担であるかも知れません。正直、私だって、最初からこのビジュアルロックが気に入ったわけではありません。小学校の4年生のころ、アニメと日本の漫画に関心を持ち始めた私は、自然に日本の音楽にも接するようになりました。6年生になって、偶然あるバンドの歌を聞いているうちに魅了されてしまい、そのバンドがビジュアルロックであったことが分か

りました。

それが、中学生になってまもなく、国語の授業で、‘趣味’について発表させられた時でした。”私のアイポットには日本の歌がけっこう入っているんですが、その90%はロックだ。”と言って座ったとたん、“おかしい”とか“変”という話が聞こえてきました。国語の先生は意外な反応だと思われたらしく、クラスの友だちにどうしてロックのことをそう思っているのかと質問された時、“うるさいから”“化粧姿に嫌悪感さえ感じる”“気持悪い”という答えが返ってきました。ベルがなり、先生は首をかしげながら教室を出られましたが私はちょっと悔しく感じました。

もし、彼女たちが好きなジャンルの歌に対して、同じ言い方をされたら、彼女たちはどんな気持ちになることでしょうか。もうちょっと丁寧に‘それはこういう理由でおかしい’‘ああいうところは好きになれない’とってほしかったのです。そういう考え方も

あり得ると自分で納得できる意見が聞きたかったんですね。そのバンドは、歌手として目立つため、格好よく見せるために化粧をしたのだと思います。その外見だけを見て評価するのではなく、彼らの汗と涙、その上、情熱が作り出したメロディと音色を聞いてから評価しなければなりませんね。

人口60億人の地球上には自分の知らない世界がたくさんあると思います。不馴れで自分と違うからといって、勝手にきめつけたり、評価したりするのは正しくないと思います。偶然、ロックに出くわした場合、皆さん！リズムに合わせて耳を傾けてみるのはいかがですか。